



高齢者疾患に対する鍼灸治療：高齢者うつ状態に対する鍼灸治療

鍼灸学部 保健・老年鍼灸学講座

江川雅人、福田晋平

高齢社会で問題となる「高齢者のうつ」

高齢者のうつは、認知症とならんで、高齢者に最も多い精神疾患です。「うつ状態」とは、気分の落ち込みを主な症状とする心の病気ですが、高齢者では、気分の落ち込みが明らかではなく、「年齢(とし)のせい」などとされて見逃されがちです。しかし、高齢者におけるうつは、重篤な病気につながることもあり、早期に発見して、適切に治療をする必要があります。

明治国際医療大学では、うつ状態にある高齢者を対象に鍼灸治療を行い、その効果について検討を始めています。高齢社会を迎えたいま、心の問題である「うつ」を治療するために、鍼灸治療が求められています。

高齢者における「うつ」の特徴

1. 身体症状(眠れない、食欲の低下など)を伴うことが多い。
2. 自覚的な無気力感、焦燥感、意欲低下、記憶力低下を訴える。
3. 大病の後に生ずることが多い。
4. 心筋梗塞、骨粗鬆症、感染症、悪性腫瘍などの発生率が高くなる。
要介護状態になる頻度は2倍になる。

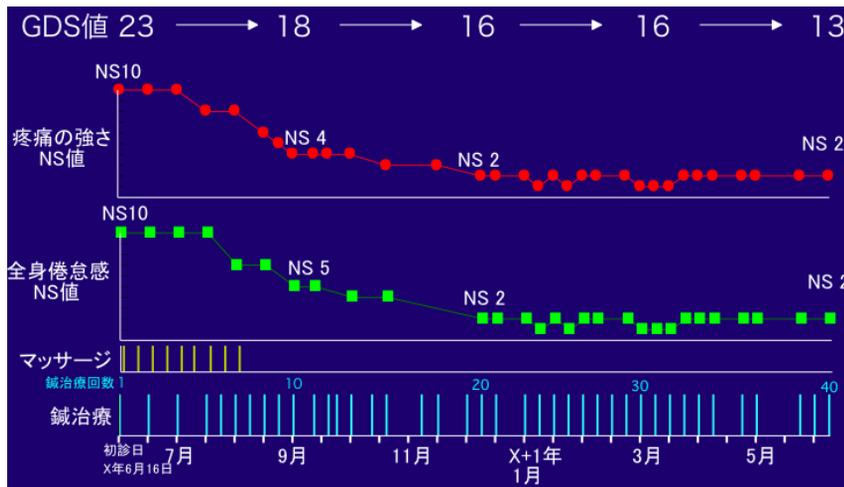
高齢者のうつの特徴の1番目は、心の不安定さが「身体の症状」となって表れることです。「身体の症状」とは、眠れない、食欲がない、肩がこる、動悸がする、などです。こうした「身体の症状」が、うつ=気分の落ち込みよりも目立つために、しばしば高齢者のうつは見逃されがちです。また、病院へ行っても原因が分からず「年齢(とし)のせい」にされてしまいます。

高齢者のうつの特徴の2番目は、気分の変化が、無気力感や焦燥感と表現されることが多く、さらには記憶力の低下を訴える事もしばしばで、「認知症」と判断されて、適切な治療の機会を失う一因となります。

高齢者のうつの特徴の3番目は、大きな病気に引き続いて発生することが多いことです。

さらに、高齢者のうつの特徴の4番目は、心筋梗塞、骨粗鬆症、感染症、悪性腫瘍などの発生率が高くなることです。すなわち、高齢者のうつは、大病の前後に出現するという点であり、若い人達のうつと違う点です。また、うつを持つ高齢者では、「介護状態」になる率が、うつで無い人に比べて2倍になるとの報告もあります。したがって、現在の高齢社会においては、高齢者のうつを予防、治療することは、要介護者や寝たきりの人を減らすためにも重要と考えられています。

高齢者のうつに対する鍼灸治療の例



患者さんは65歳の女性。3年前の脳出血の手術を機に全身倦怠感や意欲の低下と共に、強い背部痛を覚えるようになり、整形外科やマッサージでも軽減しませんでした。本学治療センターに来院時は高齢者のうつを評価するGDS値は23点と11点以上を示し、「高齢者うつ状態」と判定されました。週に1回の鍼灸治療を40回続けたところ、疼痛や全身倦怠感の軽減とともに、GDS値も低下し、高齢者うつの改善が示されました。